

令和6年度 学校評価報告書(松山市教育委員会統一様式)

学校番号	
小	104

【評定】 4:とても思う(あてはまる) 3:やや思う(あてはまる)  
2:あまり思わない(あてはまらない) 1:全く思わない(あてはまらない)

松山市立 東雲小 学校

【総合判定】 A:肯定率の平均が90%以上  
B:肯定率の平均が60%以上90%未満  
C:肯定率の平均が60%未満

学校長 西岡 香恵

※ 肯定率とは、評定(%)の評定4と評定3の合計値です。 ※ 色が付いているセルのみ入力してください。

評価領域	評価指標	総合判定	対象	肯定率	評定(%)				評定平均	○成果 もしくは ◆改善策
					4	3	2	1		
教育課程・学習指導	学校は、松山の授業モデルをもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	A	教職員	94	59	35	6	0	3.5	○教師が、松山の授業モデルを基に、自立した学習者を育てるために「学び合う学習」の充実を図ることで、児童は多様な考えと出会い、主体的に学習することにつながった。 ○教師がロイロノートを有効に取り入れながら、授業改善を図った。家庭学習でも個別最適な学習が可能なデジタルドリルを積極的に活用し、基礎・基本の定着を図った。 ○新体力テストの結果を基に、全校でITスタジアムに参加したり、各学級にボールやフリスビー等を配置し、外遊びに取り組みやすいようにして、体力の増強を図ることができた。 ◆東雲地域にある豊富な歴史的・文化的学習材を生かした活動が十分ではないので、まずは教師自らが地域を知ることから始め、授業等に取り入れ、児童の郷土愛を育みたい。
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
	学校は、教科等の指導においてアナログとデジタルそれぞれのよさを適切に生かした授業改善に取り組んでいる。	A	教職員	100	53	47	0	0	3.5	
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
	学校は、児童生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。	A	教職員	100	71	29	0	0	3.7	
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
	学校は、地域に根ざした教育を行い、郷土を大切に思う児童生徒の育成に努めている。	A	教職員	94	53	41	6	0	3.5	
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
人権・同和教育・生徒指導	学校は、人権・同和教育の視点到に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	A	教職員	100	71	29	0	0	3.7	○いじめ問題は、毎月の生活調査等で把握し、全体で情報共有して迅速に対応した。 ○異年齢集団活動を充実させることで、相手を思いやる優しい心を育てることができた。 ○毎月、児童の実態に即した重点目標を設定し、全校で共通理解を図り、取り組んだ。 ◆登校時刻が守れていない児童が多いので、個別に保護者にも働き掛け、改善する。
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
	学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童生徒の実態に応じた適切な指導を行っている。	A	教職員	100	53	47	0	0	3.5	
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
キャリア教育	学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童生徒を育てている。	A	教職員	89	59	30	11	0	3.5	◆係や当番活動により、働くことの大切さややりがいを感じたり、自分の好きなことや長所を知ったりすることが、将来につながることを意識し、今後発達段階に応じた指導に努める。
			学校関係者	100	80	20	0	0	3.8	
安全管理	学校は、児童生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	A	教職員	100	53	47	0	0	3.5	OPTAによる朝の見守りや教育支援センターとの連携により、児童の安全・安心な通学を支援した。登下校中の課題について、すぐに全校で共有し、全職員で徹底した指導ができた。
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
保健管理	学校は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童生徒の健康保持・増進に努めている。	A	教職員	100	59	41	0	0	3.6	◆早寝・早起き・朝ごはんができていない児童が多いので、今後も長期休みにチャレンジ週間を設定したり、保健だより等で保護者に睡眠の重要性を伝え、積極的に働き掛ける。 ○換気や手指の衛生について各学級担任が適宜指導を行っている。インフルエンザ等が多くなった時は、児童や保護者にマスク着用の推奨について働き掛けた。
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
	学校は、換気や手指衛生などの基本的な感染症対策を行っている。	A	教職員	100	59	41	0	0	3.6	
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
特別支援教育	学校は、特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	A	教職員	94	47	47	6	0	3.4	○教師は、児童一人一人の実態を把握し、保護者や特別支援教育コーディネーター、生徒指導主事、関係諸機関と情報共有し、連携しながら適切な指導に努めた。
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
組織運営	学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。	A	教職員	88	70	18	6	6	3.5	◆学年主任や各教科等の主任が、それぞれの立場で前向きな意見を出し、組織で対応するよう努めた。今後も日々の課題をすぐに共有し、迅速に対応できるよう努力する。
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
研修	学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応に向けて、積極的に研修に取り組んでいる。	A	教職員	94	59	35	6	0	3.5	○センターフェスタに向けて、松山市教育研修センターと連携を取りながら、全教職員がよりよい授業づくりに向けて積極的に研修を行い、授業改善を行うことができた。
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
保護者・地域との連携・情報提供	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	A	教職員	100	53	47	0	0	3.5	○今年度、まつやま型CSを導入し、公民館やPTAとの連携により、地域や保護者の支援の下、充実した活動を行うことができた。安全面の確保や教師の負担軽減にもつながった。 ○校報しのため、学年だより、ホームページ等で学校や子どもたちの様子を伝えるよう努めた。tetoruを積極的に活用し、様々な情報発信を迅速に行うことができた。
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
	学校は、学校・学年だよりやホームページ、配信システム等により、積極的に情報を発信している。	A	教職員	94	53	41	6	0	3.5	
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
教育環境	学校は、言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努めている。	A	教職員	95	77	18	5	0	3.7	○季節を表す言葉や学習で取り組んだ内容を掲示して語彙を増やしたり、朝のわくわくトークタイムや授業中のつながりタイムで、友達との言語活動の充実させたりすることができた。
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
幼保小中連携	学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童生徒の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	A	教職員	95	77	18	5	0	3.7	○部活動の壮行会への参加、授業参観、中学生による学校生活の紹介など、年間を通じて中学校との交流があり、中1ギャップの解消につながることができた。 ◆学級編成に係る入学、卒業前の情報交換に限らず、配慮を要する児童については、必要に応じて積極的に情報共有し、互いに児童理解に努める。また、校内での共有も行う。
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
	学校は、関係園・校で連携して児童生徒への理解を促進するとともに、系統性を重視した学習指導を行っている。	A	教職員	89	65	24	11	0	3.5	
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	